

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270700382		
法人名	社会福祉法人 浜田福祉会		
事業所名	グループホームみかわ		
所在地	島根県浜田市内村町365番地4		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	dex.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=327070
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和元年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みかわかふえ」もスタートして3年目を迎え毎回4～5名の地元地域の方や他事業所からの参加もあり賑やかに開催している。季節に合ったお菓子やホームの畑で収穫したさつま芋を使ったりしながらお菓子を作り、みなさんと一緒にお茶を飲みながらゆったりと過ごしている。地域の方々とも顔なじみとなり毎月1回のかふえを楽しみにされ、地域の方も「一緒にお菓子を作ったり話ができて楽しい」と言われている。市役所へかふえチラシを継続して置いて頂き広報のスケジュールカレンダーにも載せて頂き情報発信している。平成22年より始まった年に1回の「GH一泊二日旅行」も今回で10回目となった。利用者の希望を聞きながら、いくつかの候補の中から写真などを見てもらい宮島に決定した。職員によるマイクロバスの運転により9/18、19で宮島と備北丘陵公園に出掛けた。天気も良く一泊二日の旅行を楽しみ、利用者からは「ホテルの肉料理がおいしかった」「宮島の揚げもみじ饅頭がおいしかった」との感想があった。今後も旅行が継続できるように計画を立てていきたい。また「お楽しみ外食」として一人年に3回外食できるように計画を立てており、誕生日のお祝い外食や、ふるさと訪問を兼ねた外食などを行っている。食べたい料理や行きたいお店、昔行った馴染みのお店などをお聞きしながら外出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が利用者一人ひとりの「私の気持ちと姿勢シート」を作成していろいろな視点から利用者の思いを把握し、共有して利用者の思いに沿った支援に努めている。毎月1回、「みかわかふえ」を開催し、地域の人や法人施設の利用者などの参加があり交流が深まっている。毎年行っている一泊旅行は自分たちで計画を立て、下見には利用者も一緒に行っている。元気で来年も行きたい、という思いは日々の生活に反映され、散歩や買い物などの外出につながり機能の維持に繋がっている。保育園児やボランティアとの交流も多く法人と連携して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に見える所に掲示し常にグループホームの理念を意識しながら介護に当たるよう心掛け、共通理解を深める為に、ホーム内会議の際には理念を唱和している。	掲示や、会議の時に唱和して意識付けを行い、全職員で確認しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる催し物への参加や利用者や外食等に出掛け地域交流を図っている。また、日用品の買い物に出掛ける事で日常的にも地域交流を行っている。	地域の催し物に参加したり、日常的に買い物、外出の機会を持ち交流に努めている。平成28年から始めた「みかわかふえ」は定着し、参加した地域の人が歌を歌いに来てくれるなど関係が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みかわかふえ毎月開催。地元地域の方が継続的に参加されている。お菓子作りやお茶の時間を共に過ごして頂き認知症の方との交流の時間を持って頂いている。かふえチラシは市役所へ継続して置いて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の方に参加して頂き、日頃の生活の中での楽しみや困っている事などないか話をして頂きケアプラン等に反映させている。又、生活状況や活動の報告も行い意見を頂いている。	活動や状況を詳細に報告し意見や助言を得てサービスに反映させている。利用者も多数参加し暮らしぶりなど感じていることを伝えている。職員も参加し会議の内容を把握している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席して頂き、生活状況や利用者の方の様子や状態など伝えている。又、変化があれば相談したり意見をもらうようにしている。	利用者の状況や取り組みを伝え、必要時には相談をし助言を受けている。カフェのチラシを市役所に置いて貰ったり広報カレンダーに案内を載せて貰うなど協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人で行う研修への参加やホーム内での研修を行い身体拘束について理解を深めている。職員間で気付き、疑問があればホーム内会議で話し合いを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人や事業所内研修での学びや振り返りを通して内容を理解している。人としての尊厳を尊び、家族の思いや職員の疑問を大事にし、不適切な対応がないか話し合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修やホーム内会議等で虐待について話し合う機会を持っている。日頃の介護の中でも不適切な言動や対応について職員間で注意し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者には、後見制度を利用している方はおられないが研修等に参加し権利擁護について学び、職員間で話し合いの場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、家族へ入居への意向確認を行い同意を得ている。ご家族の方へ重要事項説明書、同意書、利用契約書、ケアプラン等の説明を行い疑問等あれば分かりやすく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度アンケート調査を行い利用者、ご家族の意見を運営に反映させている。又、ケアプラン作成、変更時は利用者、家族の意向、要望を元に作成している。調査結果は運営推進会議でも報告し意見をもらっている	アンケートの実施や家族会で意見の把握に努めている。メールでのやりとりの希望が出されたこともあり、こまめにブログを更新して利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務改善会議やミーティングを行い職員の意見や提案を反映させている。また、事業所自己評価を実施し職員の意見を聞き、管理者を含め改善策を検討している。	会議や日々の業務の中で気づきや思いを聞き、意見をサービス向上に活かしている。新しい職員の気づきや提案を積極的に受け止め、また、事業所の良い所も伝え合い、みんなでサービス向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に対する自己申告や目標管理シート、育成面接、職員採用試験の実施により個々の努力や実績の評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の研修や外部・内部研修の参加、ホーム内研修を行い知識や技術の習得を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加により他の事業者との交流する機会を得ている。又、法人内の研修や行事を通して他事業所との相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が不安の訴えや落ち着きがない様子が見られれば時間を掛けて話を聞き要望があれば可能な範囲で対応を行っている。また落ち着かれるような声掛けやドライブ・買い物等に出掛け気分転換を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との会話を通して、ご利用者のこれまでの生活の様子や要望をお聞きしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境で生活していく中でご本人、家族様が不安や必要としている事を相談しながら生活に慣れて頂けるよう支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で料理や洗濯・掃除等一緒に出来る事を声掛けにて参加頂き共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回の「みかわたより」やブログをこまめに更新することで、活動や近況の報告を行っている。また、面会に来られた際にもご本人の様子等、お伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月2名ずつ「お楽しみ外食」と称して馴染みのお店に出掛けたり「ふるさと訪問」で懐かしの場所やお墓参りに出掛ける等馴染みの方との交流を継続して行っている。	行きつけの店や利用者の希望の場所に出かけ関係継続の支援に努めている。「ふるさと訪問」では近所の人同士が呼び合って再会したり、家族の帰省時に一緒に外出する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カンファレンス等で職員間で情報を共有しながら利用者同士の関係性を把握し共有スペースで利用者同士が関われる環境作りやアクティビティ、各種行事を通じて利用者同士の交流が図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた際には葬儀に参列させて頂いたり隣接の特養に入所された際には面会に行ったり法人行事を通じて交流を図っている。ご家族様にも見かけた際には声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から日常会話を通じてご利用者の希望や意向を把握し可能な限りくみ取れるよう職員間で共有しあい又話しにくい様子が見られれば居室等の話しやすい環境を整えている。	全職員が一人ひとりの利用者の「わたしの気持と姿シート」を作成し、互いに情報交換して利用者の思いを把握し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様にもご協力頂きこれまでの生活歴等や生活習慣の聞き取りをしており、それをもとに、ご本人に昔話をお聞きたり得意な事や関心のある事を引き出し暮らしの中で生かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェックや生活の様子、新たな気づき等を記録に残し職員間で共有し支援に努めている。また各担当者として協力しあいケアプラン作成時にも活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催し、参加できないご家族様には事前に書面にて意向を確認させて頂き、ご本人を交えて意向等をお聞きしながらケアプランを作成している。	カンファレンス前に家族に意向確認書を送り、「食事」「排泄」「入浴」など具体的な項目を設けて要望を聞き、本人の意向を反映させてプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を残すと共に日々のミーティングの時間に気づきやその他の情報を共有し休みの職員にも伝わるよう申し送りノートに残し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の要望を元の実現可能かを職員間で話し合い可能な限り実現できるよう取り組んでいる。また思いを言葉に出来ない方へのニーズがくみ取れるよう意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の皆様が生活されているこの美川地区は豊かな自然に囲まれており職員・ご利用者共に落ち着いて生活することができる。地域の祭りや催し物にも積極的に参加し楽しみが持てるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々状態を確認・把握し主治医にその旨を報告。内服の変更による特変が見られた際には主治医に報告し指示を仰ぐ。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し、受診や往診の支援をしている。利用者の状況を報告し連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師が常駐していないが週1回看護師が勤務しご利用者の1週間の様子を伝え相談・対応を行こなっている。またいつもと違った様子が見られれば直ちに主治医・保健師に連絡が取れるよう連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際には、お見舞いに行き少しでも不安が取り除けるよう支援を行い医療関係者とのカンファレンスを開催し情報を共有し退院へ向けての支援を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃のコミュニケーションやカンファレンスの中からどのような考えを持っておられるのかを把握し、ご家族様の意向とすり合わせホームとしてできる事を説明し方針を決めチームとして支援を行っている。	利用者、家族の意向を確認し、事業所としてできることを伝え法人施設と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル・緊急連絡先等を小まめに確認し職員に徹底し、万が一の事態に備えている。また年一回の救命救急法の実践研修を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	急な災害時に備え対応できるよう、総合訓練を含め年に4回、日中・夜間を想定し避難訓練を行っている。また緊急連絡網を作成し緊急時の連絡方法も訓練している。	法人の総合訓練と事業所として昼、夜を想定した防火訓練を実施している。訓練後は気づきを話し合い共有している。土砂災害の危険のある時は法人施設に避難することになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の価値観を大切にした対応や言葉使いを心掛けている。また排泄面などさりげなく声掛けを行いプライバシーに配慮している。	排泄の声かけは利用者のそばで行い、失敗した時もプライバシーを損ねないようにさりげない対応を心がけている。同性介助にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場面でも利用者が理解しやすい言葉でご本人の希望を聞いたり選択しやすいような声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩したい方には一緒にし、ゆっくりされたい方には無理強いをせず一人ひとりペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やオシャレが好きな方もおられるのでその方の意思を尊重している。また化粧水や櫛をお持ちの方には声掛けをして身だしなみが整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れながら、季節に合ったメニューの提供や、利用者と一緒に調理、おやつ作りをしている。食事が美味しい。食べる事が楽しみとの意見が多く聞かれる。	食材の買い出しや、メニュー決め、調理、盛りつけ、片づけなど利用者と一緒にやっている。週に2回、魚を届けて貰い料理したり、お好みメニューを取り入れ楽しんで食事ができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分、食事摂取量を把握し、1人1人の状態に応じた調理方法、形態や盛り付けを工夫し、個人が楽しく健康的に食事が出るように気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。また義歯の方には義歯洗浄後、週2回義歯洗浄剤を使用して頂いている。口腔状態を観て必要であれば歯科受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄物品を検討、利用者の状況を共有している。自立の方は継続して排泄が行えるように、介助が必要な方は出来る事はしていただくよう声掛け、見守りを行っている。	見守りや声かけを行い利用者の力が活かせるように支援している。利用者の状況をみんなで話し合い、その人に適した排泄用品を検討して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、朝食時に牛乳の提供やお茶ゼリー、こまめな水分摂取、食物繊維の多い物を摂取していただくよう心掛けている。また個々に合わせ、無理のない運動(散歩、ラジオ体操)を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望がある場合、安全に配慮し安心して入浴してもらうように努めている。拒否がある利用者に対しては安心して入浴して頂けるよう声掛けをしている。	利用者の希望や、状況を見て時間や日にちを変えて対応し、安心して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて休憩したい時に安心して休めるよう居室やリビングなど環境整備(温度調節等)を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はいつでも確認出来るようにファイルに綴っている。薬の変更は職員間で周知出来るように介護日誌に詳しく記載し確認を行っている。変更があった時は副作用に注意し見守り様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ごとに人生歴シートを作成している。シートを元に利用者の好きな事、やりたい事等を聞き楽しみに繋げたり普段の生活の中でご本人の出来る事を見つけ活かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に行きたい所、食べたい物等の希望を聞き、希望に沿った所に外出し食事をする「お楽しみ外食」を行っている。又、ふるさと訪問で利用者の地元へ出かけたり、毎日の買い物の際に利用者の希望の場所にドライブする事もある。	散歩や買い物、ドライブなど、利用者の希望を聞いて日常的に戸外に出かけている。年3回、それぞれの利用者の希望を聞き「お楽しみ外食」としてふるさと訪問や誕生日外出などを支援している。毎年1泊旅行で希望の場所に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預り金台帳を作り、不備がないようにしている。希望があればご本人にお金を所持して頂き職員と一緒に管理して頂いている。買い物外出では利用者と一緒に買い物に行き希望している物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で電話出来るように環境を整えている。電話を掛けるのが難しい利用者は職員が代わって伝言を伝えている。家族や親戚、兄弟の方からの電話も取次し、利用者への手紙もご本人に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や居間にある湿度、温度計を常に確認し、温度調節を行ったり、冬季は居室、居間に加湿器を設置し湿度にも注意している。居間、玄関には季節に合わせた装飾品や花を飾ったり、写真、絵を貼り心地よく過ごせるようにしている。	季節の花や利用者の絵や書などを飾り、ゆったりとした環境づくりをしている。室温や湿度に配慮し加湿器を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で座って談笑したり、テレビが見れる様にソファを設置している。作業ができるテーブルの設置や冬場はこたつを出し、寛げるスペース作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には馴染みのある家具や物、仏壇等を置き、写真や花を飾り居心地良く過ごせる様にしている。また、ベットや家具等ご本人の希望や以前の暮らしを考えながら設置位置を決めている。	利用者の馴染みの家具や写真、身の回り品などを置き安心して過ごせるようにしている。ソファをベッド横に置き立ち上がり時の持ち手にするなど安全面に配慮した工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人1人の「出来る事」「出来ない事」に応じて自立支援している。身体状況に応じた居室内のレイアウト、トイレや廊下、浴室等に手すりを設置し足元も転倒防止の為、必要のない物は置かず安全に配慮している。		